

コリント

第二

12

「神の誇りか 人の恥か」

コリント人への手紙Ⅱ 12章 第三の天・パウロの誇り

アウトライン

- 0. イントロダクション
- I. 誇るべき啓示 1~10節
- II. パウロの憂い 11~21節
- III. まとめと適用

信仰者の歩みの光と影
主だけを誇る者となろう



コリントの手紙第二とは？

- **著者** …使徒パウロ。
- **年代** …第一(55年)の2年後、57年頃。
- **執筆場所** …コリントへの途上、ピリピ。
- **対象** …コリントのキリスト者たち
(離散のユダヤ人と異邦人)
- **目的** …アフターケア。献金の促し。
非難への弁明。再訪問の備え。



パウロのコリント訪問

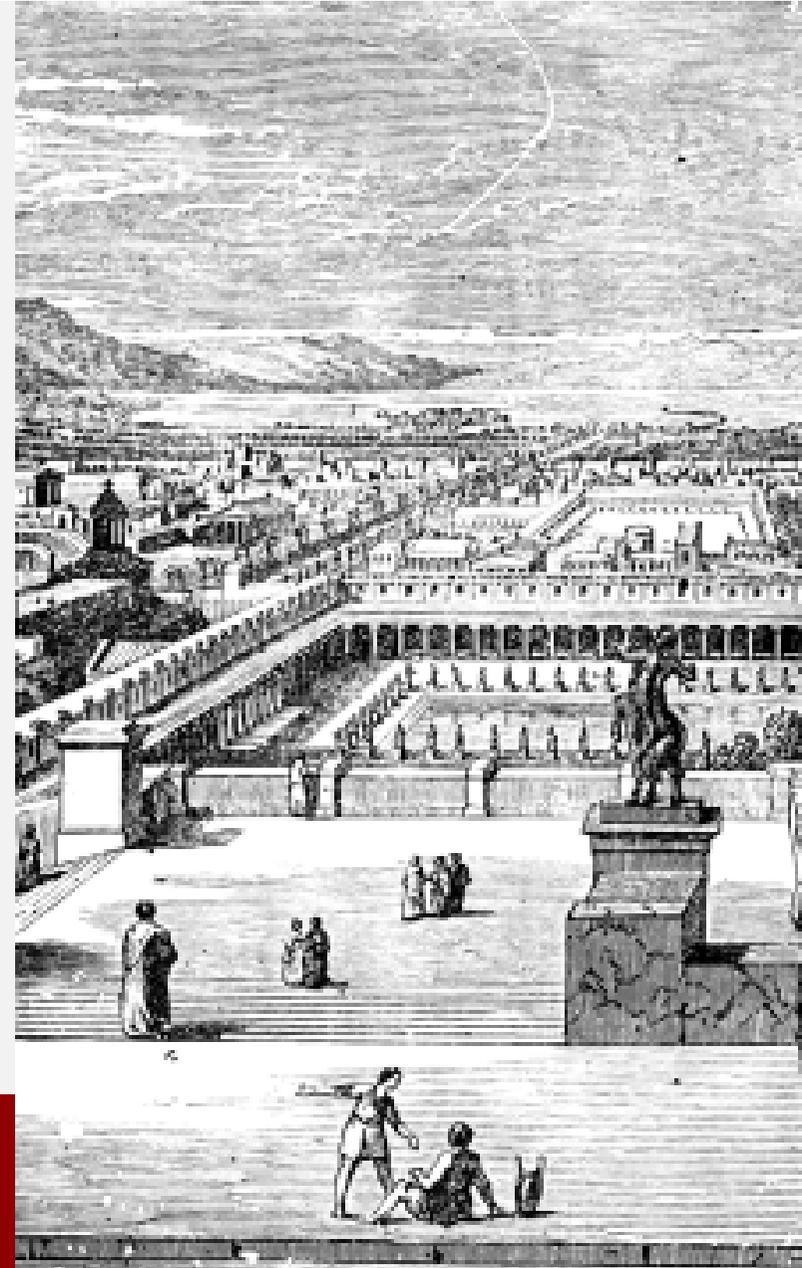
- ① 最初の訪問 (第二次旅行) ・ 1年半滞在 50年
- ② エペソ滞在中 (第三次旅行) 手紙 A を送付
第一の手紙を送付 54～55年
- ③ 二度目の訪問 (II コリ 13:2) 55年
手紙 B (悲しみの手紙) を送付
- ④ コリントへの途上で (ピリピ?)
テトスと合い、現状を聞く
第二の手紙を送付 55～56年
- ⑤ 三度目の訪問 55～56年



【コリントとコリント教会】

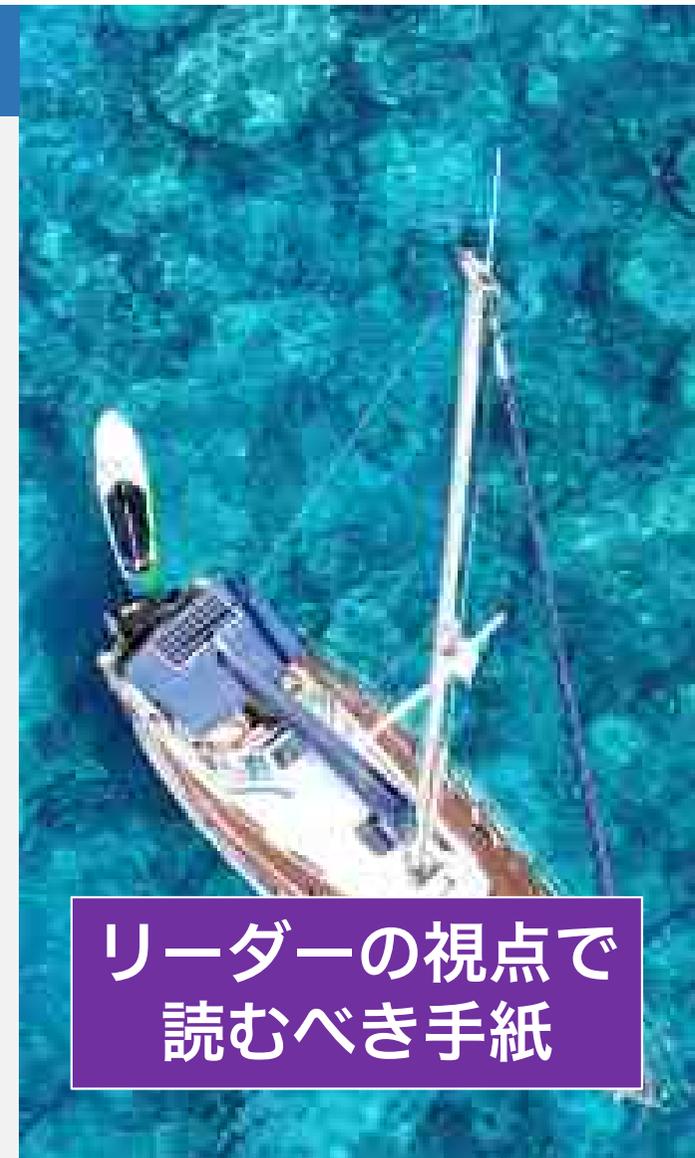
- アカヤ州(ギリシャ南部)の州都
国際都市。ローマ人、ギリシャ人…etc。
かなりの規模のユダヤ人共同体も存在。
- **不道德**の町。少年への性愛、複数の愛人。
神殿娼婦の存在。 **偶像崇拜**が蔓延。
- 異邦人信者が主流。偶像への警戒の薄さ。
基本的教理からの逸脱。自由のはき違え。

第一の手紙の後に変化はあったのか？



第二の手紙の特徴・テーマ

- 第一の手紙は、コリントの信徒もよく知っているはずの**信仰のイロハのイ**を確認するもの。
- 変化もあった一方で、パウロに強まる反感も。
 - ① グッドニュース…罪を犯した人の悔い改め
 - ② 残念なニュース…献金が集まっていない
 - ③ バッドニュース…パウロの使徒性への疑い
- **伝えるべきこと**は、第一の手紙に執筆済み。さらに加えるとすれば、**パウロ自身の思い**。
→ **感情**が強く表れた手紙になっている。



リーダーの視点で
読むべき手紙

パウロの思いをくみ取り、リーダーとして私の信仰を成長させよう



I. 誇るべき啓示 IIコリント12章1～10節

【主の御業を誇る】 Ⅱコリ12:1

私は誇らずにはいられません*。誇っても無益*ですが、主の幻と啓示*の話に入りましょう。

*誇らずにいられないのは、神。

*自分のことを誇っても仕方ない。

*パウロが見たのは、幻による主の啓示。

■ 誇る → 堂々とする。高く掲げる。

恥とする → 隠す、覆う。



【第三の天】 II コリ12:2

私はキリストにある一人の人*を知っています。この人は十四年前に、**第三の天***にまで引き上げられました。肉体のままであったのか、私は知りません。肉体を離れてであったのか、それも知りません。神がご存じです。

*湾曲的な表現。パウロ自身のこと。

【天の三層構造】

- ① 第一の天 … 地上の空。
- ② 第二の天 … 星々の世界。宇宙空間。
- ③ **第三の天*** … パラダイス。神の世界。



【天の国のことば】 II コリ12:3~4

私はこのような人*を知っています。肉体のままであったのか、肉体を離れてであったのか、私は知りません。神がご存じです。

彼はパラダイス*に引き上げられて、言い表すこともできない、人間が語ることを許されていないことば*を聞きました。

*パウロ自身のこと

*パラダイス …第三の天

*人間とは異次元の、世界を創造した言葉。



【誇るべき神の啓示】 II コリ12:5

このような人のことを私は誇ります。しかし、私自身については、弱さ以外は誇りません。

たとえ私が誇りたいと思ったとしても、愚か者とはならないでしょう。本当のことを語るからです。しかし、その啓示があまりにもすばらしいために、私について見ることに、私から聞くこと以上に、だれかが私を過大に評価するといけないので、私は誇ることを控えましょう*。

*“これ以上に誇ることは控えましょう”



【とげ】 II コリ12:7

その啓示のすばらしさのため高慢にならないように、私は肉体に一つのとげ*を与えられました。それは私が高慢にならないように、私を打つためのサタンの使い*です。

*不明 …目の病？ 癩癧？

➡分からないからこそ、誰もが適用可能。

*墮天使である悪魔も、神の被造物。

神の許しの範囲でしか活動できない。



【弱さの内に働く神】 Ⅱコリ12:8～9

この使いについて、私から去らせてくださるようにと、私は三度、主に願いました。

しかし主は、「わたしの恵みはあなたに十分である。わたしの力は弱さのうちに完全に現れるからである」と言われました。ですから私は、**キリストの力が私をおおうために***、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。

***自分の弱さを思い知らされ、打ち砕かれた、へりくだった者を、主は用いてくださる。**



【弱いときにこそ、私は強い】 II コリ12:10

ですから私は、キリストのゆえに、弱さ、侮辱、苦悩、迫害、困難を喜んでいます。というのは、私が弱いときにこそ、私は強いからです。

- キリストは、十字架で嘲られ、苦しめられ、葬りによって辱めの極めを味わい尽くされた。
- 信者も、自分の十字架を負い、主に従うよう、命じられている。
- 貧しい者こそ、幸い。神との和解をもたらす者として、主が用いてくださるから。





Ⅱ. パウロの憂い

Ⅱコリント12章11～21節

アカイアの夕日

【強いられた弁証】 Ⅱコリ12:11

私は愚か者になってしまいました。あなたがたが無理に私をそうさせたのです。私は当然、あなたがたの推薦を受けてよかったです。私は、たとえ取るに足りない者であっても、あの大使徒たちに少しも劣るところはなかった*のですから。

*神に与えられた啓示において。

■パウロの使徒性を疑う人々に弁証が必要だった。

➔使徒は、主に与えられた職責。

➔使徒性の否定は、神を拒むことと同じ。



【使徒性の証明】 II コリ12:12~13

私は忍耐を尽くして、あなたがたの間で使徒としてのしるし*を明らかにしました。しるしと不思議と力あるわざ*によってです。

あなたがたが他の諸教会より劣っている点は何でしょうか。この私が、あなたがたに負担をかけなかった*ことだけではありませんか。この不正*のことは赦してください。

*パウロの奇跡が、パウロの使徒性を証明。

*世俗的なコリントでの伝道の特例。

→長老を経済的に支えるのが本来の姿。



【ささげるべきは、あなた自身】 II コリ12:14

見なさい。私は、あなたがたのところに三度目の訪問をする準備ができていますが、あなたがたに負担はかけません。私が求めているのは、あなたがたが持っている物ではなく、あなたがた自身*なのです。子が親のために蓄える必要はなく、親が子のために蓄えるべき*です。

*経済的負担を担わないコリント教会の人々は、親に依存した子どもでしかない。

■ どうあれ、クリスチャンは主の所有であり、自分自身を主にささげているか*が問われる。



いつまで
この不名誉に
甘んじているのか？

【パウロが尽くした愛】 II コリ12:15

私は、あなたがたのたましいのために、大いに喜んで財を費やし、自分自身を使い尽くしましょう*。私があなたがたを愛すれば愛するほど、私はますます愛されなくなるのでしょうか。

*言い切れるだけの愛と労力を注いだパウロ。

➔度重なる訪問。何度も書き送った手紙。

*究極は、主イエスが味わわされたこと。

■リーダーとして立てられたすべての者が、大なり小なり、味わわされる体験がある。



【濡れ衣】 II コリ12:16~17

それならそれでよいとして、私はあなたがたに重荷を負わせませんでした。それでも私は、**悪賢く**、**あなたがたからだまし取った***と言われます。私はあなたがたのところに人を遣わしましたが、そのうちのだれかによって、あなたがたをだますことがあったでしょうか。

*エルサレム献金に対する批難から生じたデマ。
➡献金自体、人々が決めたものだったのに。



【同じ心・同じ足跡】 Ⅱ コリ12:18

私はテトスにそちらに行くように頼み、あの兄弟もともに遣わしました。テトスはあなたがたをだましたでしょうか。私たちは同じ心で歩んだではありませんか。同じ足跡をたどったではありませんか。

*コリントで、福音が告げられ、救われる人々が起こされ、地域教会が誕生した。

■同労者だった人々が、激しい敵対者に!!

➔現実の歩みの中で起きること。



経験しない
リーダーはいない

【すべてはあなたがたのため】 II コリ12:19

あなたがたは、私たちがあなたがたに対して自己弁護をしているのだと、前からずっと思っていましたか*。私たちは神の御前で、キリストにあって語っているのです。愛する者たち、すべてはあなたがたが成長するため*なのです。

*彼らもパウロの愛を知り、信頼を寄せていた。

*パウロがコリントに手紙を書いた動機の根源。

■問題は、彼らが、自分たちの信仰の成長を堅く拒んでいるところにある。



幼子から脱しない
依存的な信者の姿

【パウロの憂い】 II コリ12:20

私は心配をしています。そちらに行ってみると、あなたがたは私が期待したような人たちでなく、私もあなたがたが期待したような者でなかった、ということにならないでしょうか。争い、ねたみ、憤り、党派心、悪口、陰口、高ぶり、混乱*がありはしないでしょうか。

*パウロが直面しているコリントの現実。

■パウロの心配は、杞憂ではない。

最悪を想定しつつ、それでも歩みを進めている。



【悔い改めを求めるパウロ】 Ⅱコリ12:21

私が再びそちらに行くとき、私の神があなたがたの前で、私を恥じ入らせる*のではないのでしょうか。そして、以前に罪を犯していながら、犯した汚れと淫らな行いと好色*を悔い改めない多くの人たちのことを、私は嘆くことにならないのでしょうか。

*主に誇るものが何もない状態。

*コリント教会の問題。性的罪。偶像との関わり。

■真実に誇れるのは、主から出たものだけ。

パウロが誇るのは、信仰者に与えられた神の恵み。





Ⅲ. まとめと適用 信仰者の光と影 主だけを誇る者になろう

マケドニアの山々

コリントの誇り パウロの誇り

- コリントの人々が誇っていた自由は、人の自由に過ぎなかった。彼らの一人が犯した罪は、主の前で“恥”とみなされるべきもの。「だれも、父の妻を妻にして自分の父の恥をさらしてはならない」

申命記22:30

- パウロの使徒性を疑い、パウロを“恥”とみなしたコリントの人々。しかし、パウロはあえて、自らの“誇り”を口にした。

➔パウロの“誇り”は、主による選び、一方的な恵みに基づくもの。

聖書が記す“恥”とは？

■ “恥”は、人が**神の約束**を破り、神から断絶されたことから生じた。

「そのとき、人とその妻はふたりとも裸であったが、恥ずかしいとは思わなかった。創世記2:25」

■ “恥”とは、主の**律法**(もしくは**キリストの律法**)に反すること。

➔ 神から出たものではない、「人の誇り」は、“恥”に過ぎない。

「悪しき者は自分自身の欲望を誇り

貪欲な者は【主】を呪い侮ります。詩篇10:3」

聖書が記す“誇り”とは？

■ “誇り”は、**神に属すること。神の約束、神の恵み。**

→ 人が誇りうるものは、神から与えられた恵みだけ。

■ パウロが誇ったのは、驚くばかりの**神の恵み。**

→ 主が一方的にパウロを選び、回心に導き、使徒とされた。

→ 第三の天まで体験させ、神の約束と計画の全貌を知らされた。

■ コリントの信者が、主に従い歩めば、パウロの“誇り”となる。

主に背き続けるなら、パウロの“恥”でしかない。

世を誇る者 主を誇る者

- パウロが誇りたいと切に望んだのは、コリントの信者の成長。
信仰の成長に必要なのは、**ただ主に従い、主を誇り**とすること。
- 主を誇るものは、世にあっては愚か者、恥と見なされる。
求められるのは、恥をも厭わず、**ただ主だけを誇り続ける**こと。
- 人の誇りは、虚しくされ、すべて取り去られる時が来る。
ただ主を誇りとする者が、主の誇りとされ、高く挙げられる。

エレミヤ書9章22～26節①

「語れ。【主】のことばはこうだ。

『人間の死体は、畑の肥やしのように、刈り入れ人のうしろの、集める者もない束のように落ちる。

—【主】はこう言われる—

知恵ある者は自分の知恵を誇るな。

力ある者は自分の力を誇るな。

富ある者は自分の富を誇るな。

エレミヤ書9章22～26節②

誇る者は、ただ、これを誇れ。
悟りを得て、わたしを知っていることを。
わたしは【主】であり、
地に恵みと公正と正義を行う者であるからだ。
まことに、わたしはこれらのことを喜ぶ。
—【主】のことば。』」

エレミヤ書9章25～26節③

「見よ、その時代が来る—【主】のことば—。
そのとき、わたしはすべて包皮に割礼を受けている者を罰する。
エジプト、ユダ、エドム、アンモンの子ら、モアブ、および
荒野の住人で、もみ上げを刈り上げているすべての者を罰する。
すべての国々は無割礼で、イスラエルの全家も心に割礼を受け
ていないからだ。」

**主を誇りとする者は、永遠の神の国に招き入れられ、
主を誇りとしない者は、罰せられ、永遠の滅びに至る**

★ 主の誇りを持って歩む信仰者となるために ★

- パウロがコリント教会に願ったのは、信仰の成長。聖化の歩み。主の使命に責任を負い、ただ主だけを誇りとして歩むこと。
- リーダーとして誰かの聖化に寄り添うことで促される成長がある。パウロのように“恥”とみなされる体験を、誰もが通らされるから。
- 顔と顔と合わせた関係では、口先だけの信仰など全く通用しない。受けるだけなら、いつまでも幼子のまま。成長も誇りもない。

誰かの成長に責任を負おう。主がしてくださっているように

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、

①わたしの^{つみ あがな}罪を贖うために十字架で^{じゅうじか し}死に、

②墓に^{はか ほうむ}葬られ、

③三日目に^{みっかめ ふっかつ}復活した^{しん}こと、を信じます。

^{しゆ}主よ、あなたが、わたしの^{つみ ゆる}罪を赦し、あなたのものとされました。

^{おど めぐ あた ほこ}驚くべき恵みを与えてくださった、あなただけを誇りとします。

^{よ しんこう はずかし}世にあっては、信仰のゆえに辱められることがありますが、

^{しゆ にんたい わたし わ みちび}主が忍耐して、私を守り、導いてくださっています。

^{みことば きょうだいしまい まじ なか わたし はぐ}御言葉と、兄弟姉妹との交わりの中で、どうか私を育ててください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」